

電子カルテ 次世代へのパラダイムシフト モジュール化のすすめ

東京都医師会理事 大橋 克洋

1985年、世にさきがけ電子カルテ開発をはじめてから現在にいたるまで、開発者の立場から、また日常診療での利用者の立場から、現場で試行錯誤し考えてきた集大成、今後の電子カルテのあるべき姿について要点を述べます。今後の電子カルテの方向性への「道しるべ」となれば大変嬉しく思います。

京都大学 吉原博幸

現在の電子カルテ開発方法は、既に限界に達していると思います。特に、大病院用の電子カルテは、そのインターフェイスのバラエティの貧弱さから、特殊な診療科などでは使えたものではありません。このセッションでは、これらの限界を打ち破るためにはどうすれば良いのか、日本を代表するベンダーの若手に集まってもらい、自由な意見交換をしたいと思います。

理想的な電子カルテとは

- 自分なりの環境（使い勝手）で使いたい
- 医療は複雑多岐（プロの道具はそれぞれに異なるのが普通）
- 他で使われている優れた機能も使いたい
- 余計な神経を使わず、やりたいことを素
- 直にやりたい「靴下搔痒の感」はイヤ
- 利用環境（OSやハード）に依存しない

では、どう実現すればよいか

- 基本部分はワープロに毛の生えた程度
- そこへ色々なツールをプラグイン
- これにより自分の好きな作業環境を

ピザに例えれば、厚手・薄手のピザ生地を選び、そこへ好きなものをトッピングするようなもの

なぜモジュール化か

- 誰かが作成した優れた機能を、自分の利用環境に組み込める（部品の使い回し）
- 部品単位での開発による生産性・保守性の向上とコスト・ダウン
- 有償・無償、クローズドなソフトウェアオープンソースなど色々なものを使える

実現には何が必要か

- DB は従来からの標準のものでよい
- DB とモジュールとを仲介するミドル・ウェア（本体）
- ミドル・ウェアに接続できる様々なツール類（部品）
- 本体と部品を接続する 標準 API

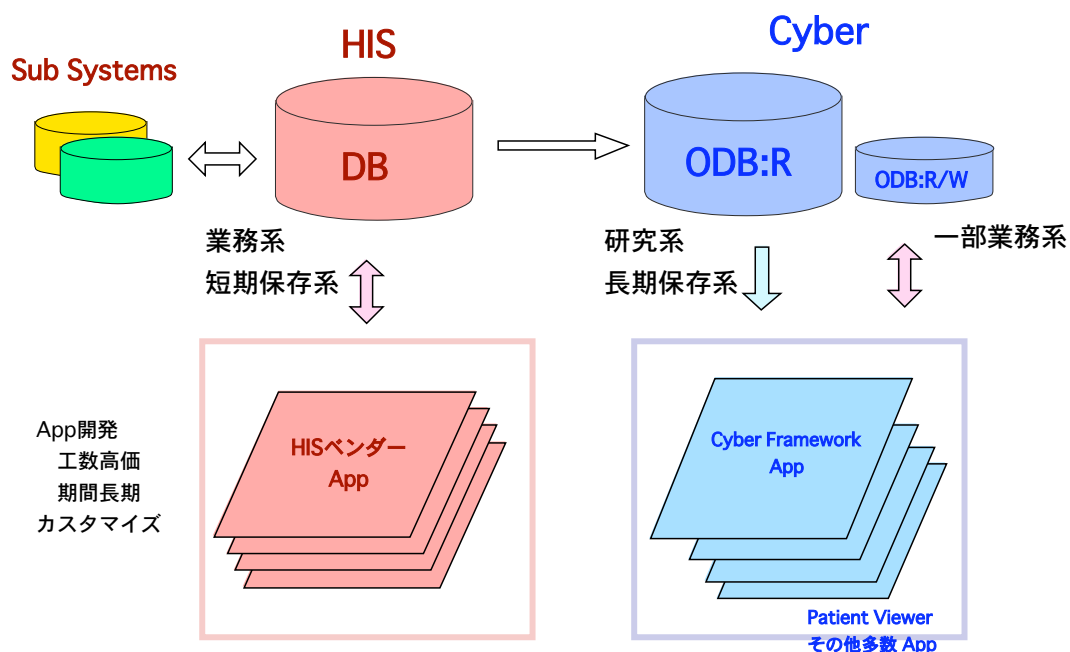
これからのキーワード

- **Object** 指向: 従来のソフトウェアだけでなく **Web**
サービスなどを含めた部品化
- **SaaS: Software as a Service**
- **MashUp:** 複数の異なる提供元の技術やコンテンツ
を複合させて新しいサービスを形作る

京大病院の例

- とにかく安く、速くアプリを作る
- その結果、アプリにバリエーション
- データベースの高速複製
- オブジェクト指向アプリケーション開発環境（Cyber Framework）を使った、高効率の開発環境

HISとCyberの関係



パラダイムシフト

